

検査項目内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

この度弊社では下記の検査項目につきまして、検査内容を変更させていただくことに致しましたので取り急ぎご案内申し上げます。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

変更内容

変更内容	新	旧
項目コード	311	303
委託先	LSI メディエンス	札幌臨床検査センター
検査項目名	蛋白分画(キャピラリー)	蛋白分画
検査方法	キャピラリー電気泳動法	電気泳動法(セルロースアセテート膜)
検体量/保存方法	血清 0.4mL / 冷蔵	血清 0.5mL / 同左
基準値	アルブミン : 55.8~66.1 (%) α1 グロブリン : 2.9~4.9 (%) α2 グロブリン : 7.1~11.8 (%) β1 グロブリン : 4.7~7.2 (%) β2 グロブリン : 3.2~6.5 (%) γ グロブリン : 11.1~18.8 (%) A/G : 1.3~1.9	アルブミン : 61.6~71.2 (%) α1 グロブリン : 1.9~3.0 (%) α2 グロブリン : 5.3~8.9 (%) β グロブリン : 6.9~10.9 (%) γ グロブリン : 10.8~19.6 (%) A/G : 1.60~2.46
所要日数	2~3日	1~2日

※1: 溶血検体でのご依頼は避けて下さい。造影剤などの薬剤を投与された場合には検査値に影響がみられる可能性があります。

※2: 「蛋白分画」、「総蛋白」および「アルブミン」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定できます。

※3: 報告形態が変更になります。

実施期日

- 令和2年4月1日(水)受付分より

蛋白分画（キャピラリー）

この度、受託を開始する「蛋白分画（キャピラリー）」はセルロースアセテート膜のような固体の支持体を用いず、キャピラリーと呼ばれる管にバッファーを充填し電気泳動を行うもので、優れた分離能をもつことにより高感度、高精度に蛋白成分を分離し測定することができるため、血清検体では従来の5分画から、β領域をさらにβ1、β2に分離した6分画での報告が可能になりました。

β位のM蛋白はβ2領域にピークの出現が多いとされていますが、本検査はβ位のM蛋白検出感度がセルロースアセテート膜の2倍以上であり、β領域の2分画化はM蛋白血症の早期発見の可能性が高まるだけでなく、β位以外の分画（γ位、稀にはα2位）に存在する微小なM蛋白も検出可能です。

本検査は従来の蛋白分画による炎症性疾患や肝障害、低蛋白血症の解析等とともに、M蛋白を伴う多発性骨髄腫、悪性リンパ腫などのスクリーニング、早期診断の向上も期待されています。

